



関東中央病院 Memories 思い出のアルバム No.4

このシリーズは、平成5年（1993年）1月から、「緑のひろば」で12回にわたって連載された記事の再掲載です。

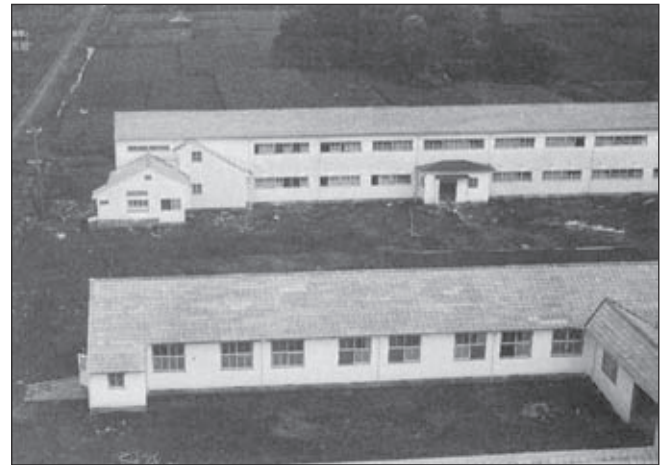
開院当初の看護婦宿舎は病棟の一番南側でした。ここには今の看護婦宿舎と同じように男と生まれたからには誰でも一度は憧れる、花の「独身看護婦」が居住していました。

ここで、昔々のある晩、事件が起こりました。この建物が看護婦宿舎であることを聞きつけた若い男数人が、宿舎の回りをウロウロしていました。それを見つけた勇猛果敢なある独身婦長が「そんなところでチョロチョロしていないで寄ってきなさい！」

と、語気鋭く言ったそうです。その後、数人の若い男たちがどういう運命をたどったか、という興味深い謎は解けていません。



▲旧東1階病棟南側、新病棟着工直前（昭和62年3月）この辺りに右上写真の看護婦宿舎があった。



▲当初の看護婦宿舎（開院前の昭和27～28年）左上の道路は現在の西用賀通り。用賀小学校はまだ無い。

その後、この建物はいろいろな用途に転用されました。2階に神経精神科当直室、1階に事務部長が泊まっていた時期がありました。厳冬の深夜、ものぐさの神経精神科医師がこともあろうに2階の窓から用を足したそうです。翌朝、寝ぼけ眼の事務部長は「ゆうべはずいぶん雨が降ったなあ……」とつぶやいたそうです。

▼平成元年秋の防災訓練。この辺りに上の写真の看護婦宿舎があった。



◀平成元年新病棟南面右下の辺りに上の写真の看護婦宿舎があった。左下は仮出入口。現在は無い。



◆次回は平成25年5月号に掲載します。